

『時事直言』 No.1798 2026年4月21日国会議員号

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] info@chokugen.com

[X(旧 twitter)] [t_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019) [Youtube] 増田俊男チャンネル/



時事評論家 増田俊男

増田俊男の「小冊子 Vol.157」本日から発送

Basic Structure of Ongoing Wars

「現在進行中の戦争とトランプの宿命」

戦後の民主主義を価値観とする国際協調とグローバリズムが崩壊、「力がモノを言う時代」がトランプの出現によって加速されている。

トランプが、「自分には国際法など不要、自らの気持ちに従うのみ」と言ったように、力に任せてイスラエルはパレスチナの地を奪い、ロシアは強大な軍事力でウクライナを併合しようとする。

トランプは、表向きはフェンタニル(麻薬)密輸を理由にベネズエラに侵攻、マデューロ大統領夫妻を拉致、本音は埋蔵量世界最大 3,000 億バレルの原油を狙っている。

トランプは、イラン戦争ではイスラエルの安全保障の為の核廃絶を表向きの理由にしながら埋蔵量世界最大 34 兆立方メートルの天然ガスを我が物にしようとしている。

大国、強国は、安全保障は絶対であるという不文律を利用して、二言目には安全を理由に資源国を略奪する。

トランプは 2025 年 12 月国家安全保障戦略を制定、今後の世界秩序は米中二大国の責任とする方針を打ち出した。

習近平国家主席が 2009 年オバマ大統領に提案した米中戦略的パートナーシップと同じ内容であり、トランプは G2(Group2)と呼ぶ。

2026 年 1 月国家安全保障戦略に続くペンタゴン(国防総省)発表の国家国防戦略で、アメリカが安全保障と経済面で中国に劣っていることを認め、アメリカが中国と対等な立場を維持するには日本を中心にした同盟国の「貢献」が必至であるとしている。

日本は岸田内閣時代から、アメリカに対する日本の役割を認知した上で、「三文書改訂」の名のもとに 43 兆円を計上、自衛隊に敵基地先制攻撃能力を持たせる準備を進めてきたが、高市内閣は 2027 年を 2025 年に前倒した。

日本が先導して米同盟国を集結、対中軍事包囲網を強化、拡大することなしにアメリカは中国と対等に渡り合えない。

アメリカは、日本が主導する対中軍事包囲網なしに新たな G2 体制の一翼を担えなくなったのである。

高市は、先の大勝した衆院選の公約である憲法改正を実施して自衛隊を専守防衛から先制攻撃型の「軍隊」に変身させることによって初めて日本はアメリカにノーと言える国になるのである。

アメリカが無くては存在出来なかった日本から、日本が無くては存在出来ないアメリカの時代が見えてきたのである。

我々の目が黒いうちに本来の日本が返ってきそうである。

Japan is back ! (高市早苗)

小冊子 Vol. 157 お申込みは、<https://www.musrjec.com/>

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスタ U.S.リサーチジャパン株式会社 (FAX : 03-3956-1313) までお知らせ下さい。